読書科学

第 8 巻 第 2 号（通巻　第28号）　昭和40年 1 月31日 発 行（季刊）
昭 和31年12月27日　国 鉄 特 別 扱 雑 誌　第3373号

昔話　桃太郎像の変遷(一)　滑川　道夫
現代ジャーナリズムの文の長さ　阪本　一郎
僻地児童の読書力に関する研究　中野　善達
小出　馨
青少年保護条例による有害指定雑誌の実態

日本読書学会編集

28

牧 書 店 発 行

本号目次

原著

昔話　桃太郎像の変遷(一)　東京教育大学　滑川　道夫　2

現代ジャーナリズムの文の長さ　東京学芸大学　阪本　一郎　7

僻地児童の読書力に関する研究　東京教育大学　中野　善達　大鹿小学校　小出　馨　11

資料

青少年保護条例による有害指定雑誌の実態　23

会報

——本誌の編集に関する内規——

1. 本誌は日本読書学会の機関誌として，毎年4号に分けて発行する。
2. 本誌は原則として本会会員または会員が共同研究者となっているグループの研究発表にあてる。
3. 本誌への寄稿は，その年度の会費（年額800円）を払込んだ者に限る。
4. 原稿は横書きとし，標題・所属・氏名に対する英文を添えること。英訳を学会に任せる場合は，読み誤りやすい漢字に振りがなをつけること。
5. 図版の原図は正確なものを添えること。学会に製図をゆだねるときは，その実費を負担すること。
6. 原稿は編集委員会の選考によって掲載される。多少添削を加えることがあるが，大きな変更を加える時は筆者に相談する。
7. 原稿執筆者には，抜き刷り20部を贈呈する。
8. 本誌掲載の論文等を，無断で複製または転載することを禁ずる。

昔話 桃太郎像の変遷(一)*

東京教育大学
滑川道夫**

<序>

"桃太郎ばなし"の研究については，すでに多くの労作がなされている。柳田国男の"小さ子"の信仰との関連を中心に考察した名著"桃太郎の誕生"をはじめ，小池藤五郎・鳥津久基・志田義彦・藤沢衛彦・芦谷重常など，民族学，国文学，童話文学の面から，説話研究がなされてきた。"桃太郎ばなし"には，そうした知的関心をひきつけるほど"国民的英雄説話"として代表的・象徴的な意義が認められるからであろう。

馬琴以来，"五大昔噺"の筆頭に位置づけられ，児童大衆に親しまれ，さらに国定国語教科書に採用されるにおよんでいちだんと親近度を高めた。さらに，児童出版の興隆に同調しながら，主として幼児絵本の主人公として普及度を高めた。現代においては，絵本とともに，ラジオ・テレビの視聴覚メディアを通して，主として幼児期に受けいれられている。

享受の形態も，"祖父母物語"（おほぢおほばのものがたり）<異制庭訓遊戯>"祖父祖母の童話(むかしばなし)"<京伝・骨董集>という口承的なものから読書的なものへ，さらに視聴的・映像的なものへと変遷してきた。

わたしの関心は，主として明治以降の"桃太郎像"の変遷にそそがれる。民族童話・国民童話としての遺産"桃太郎ばなし"が，どのような人間像として子どもたちに与えられてきたか，それぞれの時期における"桃太郎像"の変遷を支え，可能にしているものはなにかを追求してみたい。わたしの場合は，書冊に文字化された資料にもとづいて，口承口碑に中心をおかない。しかも，児童文学的考察であって，民俗学的なものでないことをおことわりしておく。

第1 明治以前の桃太郎像

1. "桃太郎ばなしの形式"

明治以降を扱うにしても，それまでに描かれていた"桃太郎像"を概観する必要を感じる。

"桃太郎ばなし"が，いわゆる"昔話"として成立した時期は，だいたい室町末期とみるのが，ほとんど定説といっていい。それ以前にさかのぼる諸説は，ほとんど推測の範囲を超える実証はみられない。たとえば，鬼ケ島征伐の源流的構想を，馬琴のように為朝の島めぐり伝説にもとめるもの，大和国初瀬川の洪水に大なるカメ（甕）流れ来って三輪の社頭にとどまり，なかから玉の如き一男子があらわれる（本朝神社考巻五）など，伊邪那岐命が黄泉醜女を追い払う桃果と結びつけたり，実に万様である。またトーテミズム的信仰とのつながりを求めて，桃から子どもが出生したという伝説（「後漢書」の南蛮伝説）から，苗族のなかに桃姓や柳姓が多いし，苗族に桃を尊ぶ習慣があるという説もある。(注1) そうなると，"後漢書"の南方伝来の南蛮伝説に桃太郎の生誕をもとめなければならなくなる。それは，桃太郎は日本産ではなく，外国産ということになる。そこまでくる

---

* Transition of the image of Momotaro in Japanese old tale. (1)

** NAMEKAWA, Michio (Tokyo Univ. of Education)

と，お伽草子の“御曹子島わたり”の鬼ケ島も，気比神宮（越前）の内陣の彫りものにある桃果に乗った童子像も，こじつけられて源流として考察されることになってしまう。桃太郎的な童子が三従者とともに悪魔を退治するというギリシャの彫刻にまでもさかのぼらなければならなくなる。（注3）つまり，さかのぼればさかのぼるほど桃太郎は，国籍不明の人物になる。そのことは，多くの口承伝説の主人公たちにもあてはまるが，桃太郎像は焦点以前の漠然のなかに消失する。

つまり，“桃太郎ばなし”は，発生的には，さまざまな説話的な要素をもちながらも，民族的もしくは民俗的な信仰的思想を潜在させながら，日本の民衆のことばで口承され，造形されつづけてきたということである。したがって，“桃太郎ばなし”が，いつごろから，国民的なイメージをもって形成されたかということが問題とされなければならない。この問題の解決は困難をきわめる。当然，作者が問題意識にのぼるが，作者に関する諸説（注4）は，いずれも推測の範囲をでていない。“最も簡単な一語で結論を下すならば，斯ういう昔話の起りは古かった。即ち或る最高の意思もしくは計画の下には，貧しい大工の女房の腹からでもイエス・キリストは生れ得たと同様に，至って賤しい爺と婆との拾い上げた瓜や桃の実の中からでも，鬼を退治するような優れた現人神は出現し得るものと信ずる人ばかりの住んで居た世界に於て，この桃太郎の昔話も誕生したのであった。それから以後の色々の変化は，単なる成長であり乃至は老衰であって，我々はこの一つの生きていくものに，新たな生命を賦与する力は有たなかったのである。”（注5）という柳田説が，もっともよくこの間の事情を語るものであろう。柳田説は「小さ子」（瓜子姫・かぐや姫・スネコタンパコなど）物語を骨子として，鬼が島征伐の話が複合されて生成したものとみている。

「小さ子」物語は異常誕生説話である。“桃太郎ばなし”には，二型がおこなわれていることはひろく知られている。ひとつは，桃太郎が，川を流れてきた桃の実から生れたという“**果生型**”である。もうひとつは，爺と婆とが桃の実（仙果）を分けてたべたら若返えって桃太郎を生んだという“**回春型**”である。（注6）江戸期において，回春型が文献的に先行し多くおこなわれていたとしても，（注7）口承形態にあっては，どちらが原型的かということは容易に判定できない。

いずれにしても，“桃”には，邪気を払う魔力あるものとされ，伊邪那岐命が桃子三箇を投げて難をのがれるとか，追儺の式に殿上人が桃の木で作った弓をもって，芦の矢を射て鬼を払うとか，あるいは，西王母伝説，300才の長寿を保つ桃花酒，桃源郷とか，桃の神秘が，かなり古くからあった。それは折口信夫説のように中国人からの影響とも見られよう。また，桃は，人体のモモ（股）であるとか女陰を象徴したもの（芦谷重常）であるといった説もなされている。しかし“桃太郎ばなし”が，子どもを対象に語られるときには，果生型を採ったものと推定される。果生型を採らない場合でも，妻覓きのくだりは省略されてきたものだろう。子ども向きの説話としての配慮が当然なされて展開したものだろう。江戸期の文献で果生型が多いということも，このことを裏づけるものであろう。

“桃太郎ばなし”は，この異常誕生説話と，鬼ケ島征伐との二部構造をなしていて，二つの話が複合されたものとみられている。後者は，馬琴のいうように「保元物語」の為朝の鬼が島渡り（小説化されたものが“御曹司島渡り”）に擬されて成立したものとみられる。

二部構造の“桃太郎ばなし”は，室町期の中葉から戦国時代にかけて成立したものとする説が多い。このころは朝鮮・明との往来もさかんであり，後期には南方への進出もおこなわれる時期である。日本人の海外進出の思想もおこり，勇敢な行動と成功が国民の夢を誘ったことに無関係ではないだろう。“日本一”ということばは当時の流行語的性格をおびていた。“八幡船”などの海洋進出の事実を童話化して，異常誕生説話と結びつけることによって“桃太郎ばなし”が形成過程をたどったものと考えられるのである。その過程において，児童の興味をひきつけ，“桃太郎ばなし”への児童の参加が多くな

るにつれて，子ども向きのものに形成されていったものだろう。（注8）

（注1） 鳥居龍蔵“日本内国民族の原始宗教” p. 223

（注2） 名村道子“江戸時代の桃太郎” p. 51（国文第19号 お茶の水女子大学国語国文学会 昭和38）

（注3） “桃太郎ばなし”をギリシャ起原のものと見る木村鷹太郎説にも関連する。同氏は，“桃太郎”の語をギリシャ語の Momostolos にもとめている。

（注4） a．菅原道真が醍醐天皇の幼児期に創作して物語ったもの。（馬琴） b．道真が太宰府に左遷されたとき，土地の子どもたちに物語ったもの。（馬琴） c．“人習ふ人の世にして，神習ふ神代に近き古への，語りごともこをば今に伝へて，いちじろくいち柴刈ると，足引の山路にをぢは出で立ちし，おむなは川へ……”（詠桃太郎長歌併短歌・黒沢翁満“童話長編”（安政4） d．北畠親房説（西式・桃太郎評釈） e．神代口碑の伝とするもの（瑞鳥園斉守・雛廼宇計木）類似の説は，国学者の多くが支持している。

（注5） 柳田国男“桃太郎の誕生” 昭和17 p. 31～2

（注6） 果生説は島津久基・関敬吾・松村武雄・柳田国男等で，回春説は志田義秀・小池藤五郎・高木敏雄等国文学者に多い。江戸期の文献上は，回春型が古く，果生型が新しいというのが志田義秀説の根拠になっている。（“日本の伝説と童話” 昭和16 中の“桃太郎概論” p. 309）名村道子の調査によれば，江戸期文献の多くは回春型であるが，明治以降に採集された口碑説話では，34例中の9割は果生型で，回春型は2例にすぎないことを明らかにしている。（桃太郎の系譜 昭和37）なお「雛廼宇計木」（瑞鳥園斎守）は回春型「燕石襍志」（馬琴）は両型を掲げ，「童話長編」（黒沢翁満）は果生型を採っている。明治期に接近するにつれて果生型が多くなる。

（注7） “享保以前のもので桃より誕生したりとする桃太郎説話は寡聞のためか未だ接しない。” 小池藤五郎「国語と国文学」第11巻2～3号“桃太郎物語”

（注8） 昔話の大部分が児童用となったわけではないが，近世になってから特に幼い聴衆の興味を顧慮して，簡明にかつ無邪気に，語り改めようとする傾向を生じた。柳田国男改版“昔話覚書” p. 37

2. 江戸期の桃太郎像

草双紙類の“桃太郎ばなし”は，いまわかっているものだけで50編以上にのぼり，明和・安永・天明期をピークに，元禄から幕末にまでおよんでいるといわれている。それには，他噺と複合して造形したものや“桃太郎後日譚”のような後日物語もあるが，今日伝承の昔話・桃太郎は，ほとんど草双紙類（赤本～合巻）にみることができる。

小池藤五郎説によると，赤本“桃太郎ばなし”の原型的なものであろうといわれるものに“桃太郎話”（注1）赤本“桃太郎昔話”（注2）がある。

前者の梗概はつぎのようになっている。

若殿をなぐさめる子どもが，火鉢を囲んで桃太郎昔語りをしている。爺は山から帰る。婆は川へ洗濯にいき流れてきた桃を拾って帰る。ふたりで桃をたべる。ふたりは若やいで男の子を生み，桃太郎と名づけて育てる。桃太郎は力もちで，大石をさし上げて人びとを驚かす。桃太郎が鬼が島へ宝を取りに行くという。途中で犬猿雉に十を団子を与えて供にする。鬼が島にいたり鬼の大将を組み敷き，宝物をださせる。打出の小槌，隠れ簑，隠れ笠などを持ち帰る。父母の前で打出の小槌で金銀を打ちだす。

この“桃太郎話”を母胎にして，つぎの“桃太郎昔話”があらわれる。二書とも享保の初めごろと推定されている。

男の子ども五人が火鉢を囲んで“むかしむかしあったとさ，ぢゞは山へくさかりに”“きょうはいとのどかな日ぢゃそろそろやどへかへりましょ，ばばがまってあろ”（川で婆）“みづのながれと人の果報はさりと

はさりとはしれぬものぢゃ”（桃が流れてくる）……夫婦は桃をたべて若やぎ，男の子を生み，桃太郎と名づける。力持となって大石を片手に持ちあげて若衆を驚かす。やがて鬼征伐にでかける。父母は団子をこしらえてやる。途中で犬猿雉に出会ってとう団子を与えて供にする。鬼が島の城門を押しやぶって戦う。桃太郎は鬼の大将を組み敷く。宝物を出させる。打出の小槌，隠れ簑，隠れ笠をかついで家に帰る。父母の前で打出の小槌で金銀を打ち出す。

この二つは，類似性を濃くもっている。子どもが火鉢を囲んで昔語りをするという形式，回春型の誕生，とうだんご（注3）を持っていく，武勇礼讃，などが共通している。

子どもが昔語りをたのしんでいたことも，桃太郎が子どもたちに人気があったことも想察される。

回春型は江戸初期のものに多くみられる。“ばば”「やれよいももかな。もひとつながれてこい。ぢぢにおませう。」ぢぢばばももを服し，たちまちわかやぎて一子を儲け桃太郎と名づく。”（赤本・むかしむかしの桃太郎（注4））という形で書かれているものが多い。この書冊では，大石を持ちあげるところが，片手で沢庵石をさしあげて人びとを驚かすとなっている。また，桃太郎が団子を持って鬼が島へ行きたいと願うと，父は“それはよしにしろ，団子が好きならこしらへてやらう”と，とどめる。それが母のとりなしで許されるという形である。この団子が「日本一のきび団子」である。イヌ・サル・キジのお供，鬼ガ島征服，宝物の獲得，凱旋は，同形である。

昭和7年（1770）の“娯鳥斎詩文集”中のつぎの詩をみると，このころまでに“桃太郎ばなし”は一応造型を終っていると思われる。

読赤本

喜見桃太郎　　勇力平鬼曰

偏知団子甘　　自是日本一（注5）

桃太郎の勇力が讃仰され，日本一という誇示も成立しているとみられる。そこで，どのような桃太郎像がえがかれているかについて素描してみよう。

（注1）　赤本1冊8丁10図。外題不明　小池藤五郎「国語と国文学」第11巻2～3号による。

（注2）　赤本2冊10丁13図　西村孫三郎重信　鱗屋版　刊年不明　安永6年再版　日比谷図書館加賀文庫蔵

（注3）　とうだんごは，十コの団子で，麻緒などに小粒の団子を十コ連らねたもの。

（注4）　赤本1冊5丁8図　藤田秀素絵　西村板（稀書複製会飜刻）式亭三馬の珍蔵本であったことが記されている。“文化十年癸酉正月うらをうたせ表装をつくひて秘蔵す”とある。刊年不明。

（注5）　藤沢衛彦著　図説日本民俗学全集2　伝承説話編　p. 260

a　桃太郎の性格

三従者をひきつれ，鬼ガ島征伐をするのであるから，子どものころから“力持ち”でなければならない。さきにも述べたように，大石や沢庵石を片手で持ちあげる怪力の所有者として描かれる。黄表紙“桃太郎かんこの鳥”（安永6年 1776）（注1）では，桃太郎が手習いに通う師匠を，風呂に入ったまま持ちあげて場所を移したり，通行にじゃまな大石を持ちあげて移動させたりする。

また，ちがう黄表紙本では，桃太郎が村角力の大関となったというものもある。（注2）うぶ湯のたらいをひっくり返えす（注3）など，本話ものでもさまざまな変化がみられる。これは，桃太郎の勇力を強調し，怪力を具象化しようとする語り手の意図を示すものである。しかし，多くは，“大力無双の若者”（黄表紙“桃太郎一代記”）“膂力（ちから）人に優れて一郷（ひとさと）に敵なし”（燕石襍志　巻之四）のような単純な表現になっている。この点は“日本昔話集成”によって口承説話をみても骨子は変わらない。複合ばなしや飜案ものになると，桃太郎が怪力の持主であることは認められているが，その理由が附加ふえんされる。たとえば，神仏に祈願して大力を授かる（注4）ことになる。桃太郎後日譚の類もふくめて，これら

のバリエーションは，個人的なフィクションに接近していく。それにしたがって桃太郎像の民衆的造型性を失ってしまう。誕生のくだりでも“ばばあどのもいきなおんなになっていろけたっぷりに……”（十返舎一九・合巻“昔噺桃太郎”文政3年）といった潤色がおこなわれるのがふつうである。鬼ガ島を征服したとき，桃太郎がことのついでと思って遊女屋にいくと，角（つの）が二本はえている女ばかりいた（“桃太郎一代記”黄表紙天明1年）といった変容が気ままにおこなわれる。それは誕生，勇力ばかりでなく出征・戦闘・凱旋の各場面にわたる。後日譚やフィクション系列のものになると，本流的な説話から奔放に逸脱するが，その興味（おとな向き）は，それぞれの時代における本流的な説話を底に意識しているところに発生している。すくなくとも読者が本流的な桃太郎ばなしを既知のものとして理解しているという前提的な予想をもって書かれているのである。普及された本話の存在なくしては成立しないものである。

また，本流的な桃太郎ばなしの骨子（あらすじ）が，享保から明和にかけて形成が終ったとみられるが，部分的な強調点は“勇力”でみたように，それぞれの時点においてちがっている。

ことに，江戸期後半の道話的倫理性を反映させていく。ちょうど，太平洋戦争のおり，“鬼畜米英”とよんで戦意高揚に“桃太郎ばなし”が利用された点に共通する意識がはたらく。明治期には，儒教的教学思想が，“桃太郎ばなし”を色濃く強調するのにも，共通する意識がはたらく。そして，それぞれの時点における解釈が生まれる。宗教的観点や中国思想的な観点がとりいれられる。

赤本“桃太郎昔話姿”（前出）の婆のことばに“水の流れと人の果報はさりとは――知れぬものじゃ”といわせているのは，当時の無常観に支えられる民衆の運命観ともみられる。日夜神に祈願して桃太郎を授かる，西王母が夢にあらわれる，邪気を払う桃の徳をたたえる，得た宝物を朝廷に献上する，不動明王に願をかけて大力を得る，等々も密接につながっている。

桃太郎がなぜ鬼退治に出かけるのかという理由は，単純な説話のなかでは語られてないものが多い。“鬼”を悪者ときめて疑わない。悪者だから退治するのである。そこに“鬼”が存在するから退治することを当然のこととして疑わない時代に発生し形成過程をたどったのである。“巨人征服”の童話と本質的に共通する民衆の素朴な意識を認めなければならないと思われる。

江戸も後期になるにつれて，こじつけがおこなわれる。鬼が金や宝物を奪い去ったため桃太郎がとりかえすために征伐にいくという仇討意識が理由づけられているのもある。鬼が都に出ては美女をさらうために，退治するという“酒顛童子”と結びつけたのは“桃太郎大江山入”（注5）ばかりではない。藤沢衛彦は，赤本“金平夢物語”（宝永2年 1705）の坂田金平（きんぴら）が，家来のサルたちをしたがえて，黄泉国の鬼退治にいく説話から糸をひいて，鬼が島退治の話が成立したものとみている。（注6）その真偽は別にしても，鬼退治という意識がよび起されるとき，単に心内の邪気を払うといった観念よりも，具象的なイメージを必要とする意欲のあらわれとみると，金時一頼光と結びつけることもむりではなく生まれてくる理由がある。口承説話に近いと思われるものほど，征伐の理由は語られていない。後期になるにつれて，創作ものがあらわれると，理由づけがおこなわれてくる。けれども，明治期に見られるような“皇化に従はず”“禍をのぞき皇国の安寧を計る”（注9）などという理由づけはおこなわれていない。江戸期の桃太郎は，素朴なすがたをもっているといえる。

といっても，派生的な飜訳・創作ものになると，桃太郎を通俗化し現実化して，おとなの娯楽にしているものもある。鬼の大王の娘と桃太郎が通じたり，後日譚とともに，他の話材と結合されて本流のすがたが見失われる。また，文政期の国学者の桃太郎には，桃太郎子（ももおおいらつこ）が，游邇（おに）タケルを退治するという神話的扱いをしているものもある。明治期の小波をはじめとする修身童話桃太郎に糸をひく性格をもっている。“皇神の御教に服さず”ために征伐するのである。

“桃太郎ばなし”が形成されたとみられる享保・明和のころの赤本では，三従者イヌ・サル・キジが桃太郎の出征途上であって，団子をもらって，お供するという単純な形である。この変化が，ひとつください，お供申そ。ひとつはやれぬ半分やろうと語られたり，日本一のキビ団子をやるから家来になれといった交換意識によって語られたりする。

鬼が島の城門を破って，城中で鬼どもと戦い，桃太郎が鬼の大将を組み敷く，そして宝物をださせる。ここの叙述は精粗の差があるが，大同小異である。鬼が降参して，打出の小槌・かくれ簑・かくれ笠の三つの宝物をさしだすということになっているのが多い。この宝物をかついで帰ったり，車に積んで帰えったりするものがあるのは変化である。凱旋して，じじ，ばばの前で打出の小槌で金銀をうち出すことになる。

宝物もこの三つのほかに，金銀，あやにしき，巻物などを加わえたものもあるし，村人かったろう。黄表紙“金太郎・桃太郎　昔々噺問屋”（注7）は，あきらかに両者を結合させたいちじるしい例である。

そのほか，黄表紙“御子様方御このみに付　昔話桃太郎伝”（注8）では，氏神の夢のお告げによって，三従者を授かって，鬼が島征伐にのりだすことになっている。神のお告げによって征伐するのは民間信仰を反映する。多くは，鬼が里人をなやますので桃太郎が征伐にいくという形が多くなっていく。そこに金太郎ばなしとの混在が歓迎されたとか，宝物を朝廷に献上したといったものもある。

尾ひれがついて，潤色されて変容するのは口承説話の宿命である。口頭で伝承される場あいも，書冊として叙述される場あいも変容される。草紙本記述の形が，口承説話のそのままのすがたを忠実に伝えているとはかぎらないし，文字化するに際して赤本作者の解釈がつけ加わわることも，また自然のなりゆきであったろう。したがってどれが形成時代における原話に忠実なすがたをとっているかは推断できない。けれども，書冊化された“桃太郎ばなし”にかぎっていうと，おとな向きのものよりも，子どもを意識しているとみられる赤本や黄表紙ものに形成時の本流があるように思われる。この系列が，後年の童話的な要素と色彩の多い“桃太郎”に発展していって，“桃太郎ばなし”は，明治期においておとなの手から，子ども向きのものとなって，大正・昭和と発展する。

つまり，現代の桃太郎像の原型が，享保から明和にかけての“本話もの”とよばれるものにもとめる。名村道子の調査（注10）によれば，江戸期の“桃太郎ばなし”本（赤本・行成表紙本・黒本・青本・読本・黄表紙・合巻絵本をふくむ）48種中“本話”の部類に属するものとして，つぎの11書をあげている。

1. 桃太郎話　赤本
2. 桃太郎昔語　〃
3. むかしむかしの桃太郎　〃
4. もも太郎　雛豆本
5. 桃太郎かんこの鳥　黄表紙
6. 桃太郎一代記　〃
7. 御子様方御のぞみに付　昔話桃太郎伝　〃
8. （赤本）桃太郎〃
9. 昔噺桃太郎　合巻
10. 桃太郎誉家土産
11. もも太郎　紅絵

以上は，はっきりと児童を対象としているとは言いきれないとしても，すくなくとも，作者が子どもを意識にのぼせていることがうかがえる。その後の展開もそうであるが，子どもを意識することによって，この昔噺は，しだいに童話的雰囲気を濃くもっていくのである。形成期においても聴衆に子どもが多かったことは，話編そのものに，子どもによろこばれる“鬼退治”が主要素として存在したからだろう。その点から，おとな向きの色気ばなしが薄れてゆき，回春型から果生型が多くなっていったものと考えられる。

本来は，おとなたちのものであった“桃太郎ばなし”が，しだいに子ども用となって存続伝本されるというのは，他の“五大噺”（注11）についてもいえる。これは，

日本人の子どもへの愛情の表現とみられる。諸外国人に比して，幼童を過剰保護におちいるほどかわいがるのが日本人である。小泉八雲による怪盗石川五右衛門でさえも，押しいった家の子どもの寝顔の愛くるしさにひかれて悪事を果たせなかった話編は，その一例である。“桃太郎ばなし”の子ども化も，そうした江戸期のおとなたちの愛情の表現として成立過程をたどったものとみていいだろう。

そのような子どもを多少なりとも意識している“本話物”を概括すると，つぎのような桃太郎像が描けるようである。

(1) 素朴明朗なシンプリシティの持主である。

(2) バイタリティがきわめて旺盛である。

(3) (2)に密着して，武勇にすぐれて，進取の気象をもってている。

(4) 降参したものをゆるす度量の持主である。

と，いった人物像がひきだせるだろう。その他の，忠義・孝行・仁愛・勇武三従者の智・仁・勇および夫婦・父子・君臣の三綱のごときは，後世のこじつけにすぎない。素朴な桃太郎像をゆがめることに役立っている。

上のような人間像が，明治以降どのように変容をとげていくかについて，次に考察してみよう。

（注１） ３冊15丁富川吟雪絵　江戸西村屋与八刊

（注２） 黄表紙　３冊高麗井市二三　歌川国満絵　文化９年

（注３） 絵本“桃太郎誉家土産”刊年不明

（注４） 読本５冊“新版絵入　桃太郎物語”西村重長絵　宝歴３年

（注５） 黄表紙３冊　桜川慈悲成　豊国絵　寛政７年

（注６） 藤沢衛彦著　図説日本民俗学全集２　伝承説話編　p. 262

（注７） 黄表紙３冊　恋川好町　天明５年

（注８） 黄表紙３冊　南杣笑楚満人　文化２年

（注９） 漣山人　日本昔噺第１編　桃太郎　明治27年

（注10） 前出“桃太郎の系譜”

（注11） 馬琴の“童蒙話赤本事始”（わらべはなしあかほんじし）文政甲申正月　錦森堂　によれば　(1)桃太郎　(2)花咲爺　(3)舌切雀　(4)猿蟹合戦　(5)かちかち山

第２　治以降の桃太郎像

1. 明治初期～中期の桃太郎像

初期十年代までは，江戸後期の惰性が続いて，草双紙の桃太郎がおこなわれる。欧化主義への傾斜のなかでは，伝統的な昔噺への関心がひくかったのは当然である。先進諸国の文化の吸収に急であって，ジュール・ベルヌの科学小説類・ロビンソン漂流記・イソップなどが訳出紹介されるが，いずれも児童向きとしてではなかった。この時期において，来日しているキリスト教宣教師たちは，布教を目的とした児童の雑誌を刊行している。また，これらの宣教師たちは，子どもの好む日本昔噺に逆に着目するのである。

明治18年～25年（1885～1892）に（英）ダビット・トムソン，ジェームス夫妻，（米）ドクトル・ヘボン，（独）ドクトル・アグロート，ヘッドウィク・シプロフ，（仏）ドートーメール・エスパタらが，当時流布されていた草双紙や絵本を素材にして“Japanese Fairy Tale Series”を刊行している。（注１）この第一編が“桃太郎（Momotaro or Little Peachling）である。このシリーズは，美しい版画とやさしい英文からなる小型本（16cm）で，いわゆる“ちりめん本”の一種である。当時の外国向け木版絵本の出版商西宮与作・長谷川武次郎らが，横浜在住の外人を動かして製作したものである。小波の“日本昔噺”よりも６年も前に訳出されている。小波の“日本昔噺”もこのシリーズの影響を受けているという説（注２）もあるほどである。

英訳は，ダビッド・タムソンによってなされた“桃太郎”は，小波のそれとは同一ではない。

大きな桃が流れてくるのを，竹の棒でひきよせて持

ち帰える。おじいさんといっしょに食べようとして，桃を割ろうとすると，子どもがおどりでる。桃から生まれたので桃太郎と名づける。（果生型を採っている）

強い子どもとして育つが，両親の期待にこたえて，勉強する。やがて，鬼ガ島へ行くことを両親に相談して，キビ団子（Japanese millet dumplings）を用意して出発する。

イヌ・サル・キジと会うところは，“桃太郎さん！あなたのベルトにつけているのはなんですか。”“これは最良のキビ団子だ。”“ひとつください。わたしはお供します。”

そこで桃太郎は，キビ団子をとりだしてあたえるのである。鬼ガ島に着いて，まっさきに桃太郎が城門を破って入る。勇ましく戦う。鬼の大将アカンドウジは鉄棒をふりまわしてかかってきたが，とうとう桃太郎におさえられ，しばられてしまう。鬼の大将は降参して宝物を出すといった。桃太郎は笑いながら，“宝物を出せ”といった。桃太郎はよろこんで凱旋する。桃太郎が家に帰ったときおじいさんおばあさんは，たいへんな喜びようであった。桃太郎はみんなにごちそうをして，かれの冒険談を語った。宝物を見せ，富と名誉を持つ権勢者になった。というあらすじである。

外人の目に映じた“日本昔噺”としてとらえられている。これに対して，小波の“日本昔噺”（全24編）（注3）の第1編（明治27年 1891）として採りあげた“桃太郎”は，“こがね丸”（注4）と同様戯作者的筆色の濃いもので，江戸後期の赤本の感触さえうかがわれる。

小波はこの本の“口上”のなかでつぎのように述べている箇所が注目される。

“さて此の昔噺は，元より昔より有り触れた物斗り。それを事新しく書き立てるは入らざるお世話の様なれど如何したものか赤本類は，とんと影を晦ました今日僅かに乳母が添乳の伽に耳から耳へ伝へられる斗り目から目へ伝へるべき書いたものが頗る少い。其処で例の児煩悩これがいかにも残念さに兎に角一集にして置きたいと云ふ若いに似はぬ老婆心から，辛うじて求り得た二三の参考書と僅かに残る記憶を力に挿絵と唱歌の合槌を頼んで，かくは打て出でたる次第由来を聞けば難有くもなけれど其処がそれ御染馴甲斐に相変らずの御贔負を先以て御願い申し置く。”（幼年諸君へ）

明治も30年に近づくと，赤本類がすくなくなっていたことはたしかである。大阪からは，それでもいくらか出版されていた。東京では，新らしい絵本へ向っていたころである。

小波の“桃太郎”はつぎのように発端する。

“むかしむかし或る処に，爺と婆がありましたとさ。或日の事で爺は山へ柴刈に，婆は川へ洗濯に，別れわかれに出て行きました。

時は丁度夏の初旬。堤の草は緑色の褥を敷いた如く，岸の柳は藍染の総を垂した様に四方の景色は青々として誠に目も覚める斗り。折々そよそよと吹く涼風は，水の面に細波を立たせながら，其余りで横顔を撫でる塩梅，実に何とも云はれない心地です。

こんな描写のなかで婆さんがタライをすえて，洗濯をする。これは赤本系に見られなかった手法である。そこへ“素敵滅法大きな桃”がドンブリコッコ，スッコッコスッコッコと流れてくる。おじいさんの土産にしようとしたが手がとどかないし，サオもない。そこで“遠い水は辛いぞ！近い水は甘いぞ！辛いところは除けて来い！甘いところへ寄って来い！”と，二三べん繰り返えしていうと，桃が寄ってくるのである。拾って帰っておじいさんの帰りを待つ。そして桃を割ろうとするまで，ふたりの会話が1ページ半ぐらい続く。いよいよまっ二つにしようと割りかけると，

“すると不思議や桃の中から，可愛らしい子供の声で「お爺さん暫らく待た！」と，云ふかと思ふと其桃が，左右にさッと割れて，其中から一人の嬰児が，ヒョッコリ踊り出しました。”

“此体態に驚くまい事か，爺さんも婆さんも，一つより無い肝玉を潰して，アッと云って倒れましたが，嬰児はそれを制して，「イヤ驚くまい驚くまい，私は決

して怪しい者ではない。実は天津神様から御命を蒙って降ったもので，其方衆二人が此年頃，子供が無い迚嘆いて居るのを，神様にも不便に思召し，則ち私を授ける程に，吾が子にして育てよとの事だ」と声も朗かに陳べました。”

果生型になっているが，天津神の申し子として誕生したことになる。この叙述にも戯作者的な要素を見ることができる。

桃太郎と名づけ，やがて十五才になる。“其風姿の麗しさ，其心根の勇しさ。おまけに其力の強さ。実に鋳型に穿めた様な天晴れ豪傑。而も身丈衆に優れて，已に立派な男一人前に成りました。”と，桃太郎像を造形していく。

“さて，阿父さん！不図した御縁で親子と成り，長の年月の御養育，御恩は草刈る山よりも高く，又洗濯の川よりも深くて，何と御礼の申様も御座りませぬ。”と，切りだして，鬼ガ島征伐の願いを申しでる。“シテそれは何処へ行く気ぢゃ？”“仔細を申さねば御不審は御道理。元来此日本の東北の方，海原遙かに隔てた処に，鬼の住む島が御座ります。其鬼心邪にして，我皇神の皇化に従はず，却て，此芦原の国に寇を為し，蒼生を取り喰ひ，宝物を奪ひ取る，世にも憎くき奴に御座りますれば，私只今より出陣致し，彼奴を一挫に取て抑へ，貯へ置ける宝の数々，残らず奪取て立や帰る所存。何卒此儀御聞届けを偏へに御願ひ申します。”

ここで，小波は，鬼ガ島征伐の理由づけをあたえる。皇国日本にあだをする憎き奴だから征伐するという理由である。小波桃太郎の強調点のひとつである。

“鬼めを退治て禍を除き，皇国の安寧を計るがよい。”とお爺さんに言わせて，さらに強調点をたしかめている。江戸期の国学者系の思想をひいているばかりでなく，明治政府のうちだした皇室中心主義の教学思想に同調する方向で“桃太郎像”を描いているのである。

お婆さんを相手にキビ団子の製造にとりかかる。そして，いよいよ出陣となると“流石に離別は悲しいもの，爺さんも婆さんも，何時か両眼は涙に曇って「コレ気を付けて行きや！」「芽出度く凱陣を待って居ますぞ。」と云う声さへも震えて居ます。思いは同じ桃太郎……ここで人間の別離の悲しみが描かれるのである。

桃太郎が路傍の木の根に腰をおろして，キビ団子をムシャムシャやっているときに，子牛ほどもあるぶち犬があらわれて，“……弁当を残らず置いて行けばよし。異議に及べば此処で頭から咬み殺してくれるぞ。ウーわんウーわん！”と，おどす。桃太郎は冷笑して，“何をぬかす野良犬奴！吾こそは此度皇国の為めに，鬼ガ島を征伐に参る桃太郎と申す者だ。邪魔立て致さば用捨はない，已こそ頭から真二に切て棄てるぞ。”

イヌは尾を股にはさんでうずくまり恐れ入って，“お供仰せ付られましゃうなら難有い幸福に御座ります”“ウン所望とあらば只今より，供に連れるも苦しうない。”“……つきましては，私も大分腹が減って居ります故，只今召上りました其御品を何卒一個頂かして下さりませぬか！”“是は日本一のキビ団子一個は遣られぬが半分やらう。”というしだいでイヌが家来になる。サルがやってきて，家来にしてくれというので，団子の半分をやって願いをききとどけてやる。キジも御供したいという。

“桃太郎は片頬笑み「早速の降参神妙々々。此上は犬猿同様，鬼ガ島征伐の供を申付ける，随分共に忠勤致せ！」「ハッ」

こんなふうにして，三従者が，桃太郎の命令を守って道をいそぐ。やがて東海の端で大海を見渡す。三従者は海を見てひるむ。

“ヤイ下来共，何を先刻から躊躇して居る？此大海が恐しいか。さりとは云申斐ない弱虫奴が！其様な意気地の無い了簡では……”と，家来を叱って元気をださせる。船に乗って“八重の塩路を乗りだす”“矢をも欺く斗りの勢”ですすむ。

いく日かすぎて，鬼ガ島の黒鉄の城門が見える。キジを招いて計略を授ける。キジが屋根の上から”……天津

神の御使，大日本の桃太郎将軍，征伐の為めに出向ひ賜ふ。命が惜くば速に角を折り宝を捧げて降参せよ。……と大音声に呼はりました。”そこで，鬼共も“……征伐呼はり片腹痛し，イデ此の鉄棒の味を見よ。”という講談調の戦斗がおこなわれる。

鬼どもが討たれ，生残る者は頭の大鬼ばかりとなる。大鬼は鉄棒をカラリと投げすて，じぶんの角を折って，宝物といっしょに桃太郎の前にさしだして平伏して助命を願う。“桃太郎は之を見て，カラカラと打ち笑ひ「命斗りは御助けとは，面に似合はぬ弱い奴だ。然し其方は永の間，多くの人間を害めたる罪あれば，所詮生け置く訳にはゆかぬ，是より日本へ連れてゆき，法の通り首を刎ね，瓦となして屋根の上に梟（さら）すから免がれぬ処と覚悟を致せ！」と，其場て縄をかけて猿に之を曳かせ，又犬と雉子には，ぶん取りましたる宝物。まづ隠簑隠笠を初めとして，打出小槌，如意宝珠珊瑚珊瑁瑁真珠の類を大きな函に入れて担がせ再び以前の船に乗って，目出度凱陣を致しましたとさ。待ち焦れた爺さん婆さんの喜悦は申し上る迄もない事。いよいよ市が栄えましたとさ。めでたしめでたし」

これが結びの文章である。

つまり，小波の“桃太郎”は，戯作的に扱われていることが十分理解できる。下敷きには，本話的なすじ書きをなす骨子があるが，小波の桃太郎像が描かれている。どの伝本を参考にしたかは不明であるが，戯作者手法が随所にめだつところ（たとえば鬼瓦にする）や，“天に代りて不義を討つ”という思想と教訓性は，いまからみると，読むにたえないところである。当時は，すでに“教育勅語”が教育の中心になり，天皇制下の絶対主義的教学思想が確立普及されて，修身童話・教育勅語童話などもあらわれるという状況があった。その上，この年日清戦争が開始され，国民意識の昂揚という戦時色がつよまっている。このような社会状勢のもとに，この桃太郎像が書かれたのである。

前掲のダビット・タムソンのものとの相違もそこにある。この小波の“桃太郎”が子ども向きの読みものとして，以降の桃太郎童話や絵本にふかい影響をあたえることになる。

<つづく>

（注1）このシリーズには，つぎの昔噺が採られている。

(1) Momotaro or Little Peachling.
(2) The Tongue Cut Sparrow.（舌切雀）
(3) The Battle of the Monkey and the Crab.（猿蟹合戦）
(4) The Old Man who made the Dead Trees Blossom.（花咲爺）
(5) Kachi-Kachi Mountain.（かちかち山）
(6) The Mouses' Wedding.（鼠の嫁入）
(7) The Old Man and the Devils.（瘤取爺）
(8) Urashima, the Fisher—boy.（浦島太郎）
(9) The Eight-Headed Serpent.（八またのおろち）
(10) The Matsuyama Mirror.（松山鏡）
(11) The Hare of Inaba.（因幡の白兎）
(12) The Cub's Triumph.（野干の手柄）
(13) The Silly Jelly-Fish.（海月）
(14) The Princes Fire-Flash and Fire-Fade.（玉ノ井）
(15) My Lord Rag-o'-Rice.（俵藤太）
(16) The Wonderful Tea-Kettle.（文福茶釜）
(17) Schippeitaro.（しつぺい太郎）
(18) The Ogre's Arm.（羅生門）
(19) The Ogres of Oyeyama.（大江山）
(20) The Enchanted Waterfall.（養老の滝）

<以上第1期刊行>

(21) Three Reflection.
(22) The Flowers of Remembrance and Forgetfulness
(23) The Wooden Bowl. Second Series
(1) The Wonderful Mallet.
(2) The Broken Images.

この外に，小泉八雲訳の昔噺5冊がある。

（注2） 藤沢衛彦　図説日本民俗学全集2　伝承説話編　p. 280

（注3） 桃太郎を第1編として，はじめ12編を予定していたが，好評重版で続編を合わせて，24編のシリーズとした。定価5銭。

博文館刊。第1編は明治27年7月発行。菊判46ページの冊子である。

前出の“ちりめん本”以外の話編をあげると，つぎのようになる。

物臭太郎，安達ケ原，一寸法師，金太郎，雲雀山，猫の草紙，牛若丸。

現代ジャーナリズムの文の長さ*

東京学芸大学
阪本一郎**

1. 文の長さ

私はさきに，小・中・高校の現行教科書の文章について，その文（センテス）の長さを語数で計上して，学年が上になるにつれて文の長さの平均が増し，とくに長い文が使用される率が多くなることを明らかにした。これによって，文の長さは，読みやすさの査定の手がかりの一つとなると考え，その査定法と標準尺度を作った(1)。

今回は，週刊誌などの文章について，現代ジャーナリズムの文章が，どの程度の長さで書かれているかを検討してみる。語数のかぞえ方は前と同じである(2)。

2. 週刊誌の情報記事

ここでいう週刊誌の情報記事とは，いわゆるトップ記事及びこれに類する実話ふうの記事で，これには筆者の署名がなく，だいたいは内部の記者が書いたものである。新聞のニュース記事よりはくだけた物語形式で，会話文なども自由にはさんでいる。まず今日のジャーナリズムの文章では，もっとも平易に，読みやすく書かれたものの一種と見てよかろう。

週刊誌は，つぎの5種を選び，それぞれ3編の情報記事を調査対象とした。いずれも昭和37年の秋（10～11月）のものである。

週刊朝日　見習いましょう岡山国体を
　　燃える石油ストーブ・リーグ
　　横目で見続けた正宗白鳥

週刊現代　アテ師稼業は大繁盛
　　女ごころに敗れた女
　　売れっ子スターの顔は自前でない

週刊サンケイ　地下籠城・一カ月覚悟
　　アメリカ大使館の中の舶来日本人
　　渥美清ばかりがナゼもてる

週刊文春　この拳・世界最年少のチャンピオン
　　新幹線と日本開発KKの不思議な物語
　　白浪芸者の記念アルバム

週刊読売　ペテン師と汚職官吏の組み合わせ
　　30万円の殺人料金
　　日本脱出を図った自衛隊員

(1) 代表値は8語文（小学4年程度）

まず全文についての統計を示すと，表1のようである。

表の説明をする。Med（中間数）は，調査した文を最長から最短へ順に並べたとき，ちょうど中間に位する文の長さ（語数）で，この種の統計では平均を算出するのは適当でないことは先の報告で説明したから，ここではくり返さない(2)。

Q（4分偏差）は，最長から¼番めの文長と，最短か

表 1. 週刊誌の情報記事の文長

誌　名	Med	Q	Ms	Ml	SW
朝　日	9	4.0	3.7	18.7	136
現　代	9	3.5	4.1	17.6	142
産　経	9	3.5	4.4	17.5	135
文　春	8	3.5	3.6	17.4	124
読　売	8	3.0	3.3	15.1	109
全	8	3.5	3.7	17.2	128

* Sentence-length in modern journalism.

** SAKAMOTO, Ichiro (Tokyo Gakugei Univ.)

ら¼番めの文長との差の½の値。すなわち文長の散布度を示す。

Ms は，最短から¼番めの文までの文長の平均（語数）で，短いほうの文の平均語数。

Ml は，最長から¼番めの文までの文長の平均で，比較的長いほうの文の平均語数を示す。

SW（文長比重点）は，1～5語文が用いられている％をA％，6～10語文の％をB％，11～15語文の％をC％というように，5語増すごとにその段階をD，E，F……として，

$$B\%+2C\%+3D\%+\cdots+\cdots nX\%=SW$$

のように段階比重を乗じたもので，その値が大きいほど，その文章は長い文が多く用いられていることを示す(1)。

さてこの表によって，つぎのことが知られる。

a．5種の週刊誌の情報記事の文章は，その文長構造がたいへんよく似ていて，大きな差がない。つまりどの週刊誌もだいたい同じ長さの文を使って書いている。

b　全体の代表値（Med）は8語である。これは教科書の文長の発達に比べると，小学校4年の程度に当たるすなわち週刊誌の情報記事の文章は，だいたい小学校4年の教科書の程度の文構造が普通に用いられているのである。

ただし，朝日・現代・産経の3誌は9語文で，1語長い。

c．散文度（Q）は3.5語だが，朝日だけがすこし散布が大きく，読売だけがすこし小さい。つまり朝日は，長文と短文とを混用する傾向が比較的多いのに対して，読売はわりあいに同じ長さの文を用いる傾向があるのである。

d．このことは，短文平均（Ms）と長文平均（Ml）とを見てもわかる。朝日は，長文平均が18.7語で，他誌よりも長い文を書くが，また短文をも使っている。文長に変化が多いのである。読売は，これに反して，短文平均も長文平均もともに他誌よりも短く，一般に短い文ばかりで書いているのである。

文春も短文を使うほうだが，現代と産経とは短文をあまり使わない。

e．文長比重点（SW）は，全体で128.4で，これは教科書と比べると，小学校4年生の「むずかしい」程度，5年生以上の「きわめてやさしい」程度に当たる。

誌別にみると，現代の文長構造がもっともむずかしく，朝日，産経がこれに次ぎ，この3誌は，5年～中学2年の「やさしい」程度に当たり，文春は，4年の「むずかしい」程度，読売は同じく4年の「やさしい」程度に当たる。

(2)　地の文は話の文より長い

つぎに各誌の文章を地の文と話の文（カッコにはいっている文）とに分けて統計すると，表2のようであった。これを見ると，

表 2.　週刊誌の情報記事の種別文長

誌名	地の文 Med	地の文 Ml	地の文 SW	話の文 Med	話の文 Ml	話の文 SW	話の文 %
朝日	10	19.2	161	6	14.4	86	32.6
現代	9	18.2	158	7	15.0	113	37.7
産経	9	17.9	144	7	14.6	99	23.5
文春	9	18.2	140	8	12.5	65	18.8
読売	8	16.1	123	5	11.6	49	20.1
全	9	17.9	143	6	13.8	86	26.2

a．地の文は代表値が9語と，1語長くなっている。わけても朝日は10語で，もっとも長いが，読売は依然8語である。

b．いちばん長い文を使うのは朝日で，SW が161点，つぎが現代で158点，この2誌の地の文は，5年～中学2年の「むずかしい」程度，産経が同じく「普通」の程度，文春が同じく「やさしい」程度であり，読売だけが4年生の「むずかしい」程度となる。

(3)　話の文の使用率が高い（小学3～4年程度）

話の文は，Flesch が読みやすさの研究で“人称文”とよんだものの一つで，叙述は劇化して親しみやすくする。ニュース記事ではあまり用いられず，用いても書き

ことばの文体に改めたり，間接叙法にすることが多い。また論文体の文章では，引用符を使用しても，その中は他の論文の文章であって，話しことばではない。週刊誌の情報記事は，文学的な手法で，さかんに直接叙法を用いるのである。表2を見ると，

a．話の文の代表値は6語であって，地の文よりも3語も短い。

b．ただし，かなり長い文もまじっている。現代の話の文は総じて長く，SWが113点で，地の文に接近している。いちばん短いのは，やはり読売で，SWが49点といえば，小学2年生の「普通」の程度である。

c．話の文が使用されている率は，平均が26%で，これは小学校の教科書の3～4年程度である。いちばん使用率が高いのは現代で，つぎが朝日，この2誌は地の文が長いのを，話の文を多く挿入することによって読みやすくしている。これに反して文春と読売はわりあいに使用率が低い。

3. 週刊誌の小説

つぎに，同じ週刊誌に連載されている小説の文章について，同じ調査をしてみる。これらは，作家としていちおうネーム・バリューのあるものを動員しているが，週刊誌の読者を対象として書いていることに，ある程度の平易化が意図されているかもしれない。しかし，作家としてそれぞれ自分のスタイルで書いていることは否めないであろう。

つぎの10編の作家・作品を選び，それぞれ2回分を調査対象とした。

朝日　井上靖　憂愁平野
　　松本清張　天保図録
現代　北原武夫　誘惑者の手記
　　吉行淳之介　雨か日和か
産経　源氏鶏太　二十四歳の憂鬱
　　丹羽文雄　だれもが孤独
文春　五味康祐　陽気な殿様
　　山崎豊子　女系家族
読売　黒岩重吾　廃虚の唇
　　海音寺潮五郎　真田幸村

(1) 代表値は6語文（小学3年程度）

表4を見られたい。全体を平均すると，代表値は6語となる。小学校の教科書の3年程度の長さである。

a．通俗小説の文は一般に短い。情報記事よりもなお2語短い。

表 3. 週刊誌の連載小説の文長

作　者	Med	Q	Ms	Ml	SW
井　上	5	3.0	1.7	14.2	79
松　本	6	2.5	1.8	12.3	70
北　原	9	6.0	2.8	23.5	167
吉　行	6	2.5	1.9	12.4	74
源　氏	5	2.5	2.0	11.4	64
丹　羽	6	2.5	2.7	11.1	71
五　味	4	2.5	1.2	10.3	54
山　崎	10	6.5	3.3	26.3	184
黒　岩	5	2.5	1.9	11.1	60
海音寺	5	3.0	1.7	13.1	72
全	6	2.5	1.9	12.4	72

b．ただし作家によって個人差のいちじるしいものがある。もっとも長文を用いるのは山崎で，代表値が10語，つぎが北原の9語，この2氏を除けば，全体の代表値は5語になり，小学校2年程度の平易な文に相当する。

c．散布度（Q）の大きいのは，山崎と北原で，この2氏の文章は，文長の変化に富んでいる。

d．ところがこの2氏は，短文をあまり使わず，ずばぬけて長い文を使う傾向がある。山崎の最長の文は54語，北原の最長の文は46語である。

e．文長比重点（SW）の平均は90で，小学校3年に「むずかしい」程度。ただし，山崎と北原の文は，中学2～3年の程度である。この2氏を除くと，平均が68となり，小学3年に「やさしい」程度となる。

(2) 小説の地の文は個人差が大きい

小説の地の文だけを見ると，個人差がいっそういちじるしい。

表 4.　週刊誌の連載小説の種別文長

作者	地の文 Med	地の文 Ml	地の文 SW	話の文 Med	話の文 Ml	話の文 SW	%
井上	8	16.9	116	3	7.7	26	41
松本	6	11.4	72	4	13.3	67	48
北原	13	25.7	233	4	10.4	45	33
吉行	8	15.3	125	4	9.2	40	62
源氏	7	13.1	84	5	9.8	53	63
丹羽	7	11.0	77	5	11.2	58	30
五味	6	18.3	102	3	9.3	35	69
山崎	14	26.8	237	8	24.5	163	61
黒岩	6	12.1	79	3	8.5	30	39
海音寺	6	14.5	91	4	12.4	59	61
全	7	14.9	97	4	10.1	52	55

a．代表値は7語だが，山崎・北原を除くと6語となる。いずれにしても情報記事の地の文よりも2～3語短い。

b．この2氏は13～14語の文が普通で，これは高校3年の教科書よりも長い文である。

c．長文平均（Ml）では2氏とも約26語である。

d．文長比重点（SW）の平均は97で，やはり情報記事よりもかなりやさしいことになるが，情報記事は最高（朝日）と最低（読売）との差が37点で，およそ似た重みであるのに対して，小説では山崎・北原を別にしても，最高（吉行）と最低（松本）の差が53点と開いている。

e．山崎・北原ほどではないが，吉行・井上・五味などの地の文も長いほうで，短い地の文を書くのは松本・丹羽・黒岩などである。

(3)　小説の半分は話の文

話の文だけを集計すると，また作家の特徴がうかがわれて，おもしろい。

a．話の文の代表値は4語であって，これは教科書の話の文の長さとほぼ同じである。話しことばを直接叙法で書くと，だいたい4～5語の文長になるのが普通であるようである。これは比べて情報記事の話の文がすこし長くなっているのは，多少とも書きことば化されることは含まれるからであろう。

b．話の文がだいたい地の文の長さの約半分である。（SWにおいてみても）

c．山崎はやはり長いが，北原話の文は普通の長さになっている。

d．長文平均の長いのは山崎だけで，氏の話の文の長いものは，地の文の長いものに，ほぼ等しくなっている。

e．長文平均が地の文よりも長い者がある。松本・丹羽の2氏がそれで，話の文の中に，地の文よりも長い文が出てくるのである。これは，原文を見ると，他の作家ならば地の文で記述するところのシチュエイションの説明を，わざと話の文で語るくせがあるからである。

f．話しの文の短いものは井上・黒岩・五味などで，この3氏の話の文の7割以上が5語文以下である。

g．話の文の比率は平均で51%，小説の半分は話の文である。全体として話の文を多く使うのは五味・源氏・吉行・山崎・海音寺らで，話の文の少ないのは，丹羽・北原たちである。

4.　ジャーナリズムの文の長さ

以上で，週刊誌の文の長さの分析を終わる。これと比較するために，つぎの資料を調べてみた。

総合雑誌論説

梅棹忠夫　情報産業論（中央公論・昭38・3）

大河内一男　レジャーは誰のものか（文芸春秋・同上）

総合雑誌小説

舟橋聖一　影絵女人（中公・同上）

河野多恵子　美少女（芥川賞候補・文春・同上）

リーダーズダイジェスト（昭37・11）

クラレンスホール　踏みにじられたチベット

フレッド・スパークス　新時代のお手伝さん

教育雑誌論説

沢田慶輔　生活指導と読書指導（教育の窓・昭36・11）

少年週刊誌読み物

高城肇　空の王者ゼロ戦（少年マガジン・昭38・3・10）

秋本実　夜戦の王者屠龍（少年サンデー・同上）

無記名　白鳥のおどり（少女フレンド・同上）

少年週刊誌マンガ

ちばてつや　ハチのす大将（少年マガジン・同上）

九里一平　大空のちかい（少年サンデー・同上）

ちばてつや　ユキの太陽（少女フレンド・同上）

まずこれらの資料のデータを示すと，表5のようである。

表 5.　いろいろの読み物の種別の文長

種　　別	Med	Ml	SW	話文 %
週刊誌の情報記事	8	17.2	128	26.2
〃　小説	6	14.6	90	51.0
総合雑誌の論説	14	27.6	250	0.4
〃　小説	8	20.2	148	20.1
リーダイの読み物	11	22.4	195	17.9
教育雑誌の論説	24	43.9	485	0.0
少年週刊誌の物語	6	8.5	32	60.6
〃　漫画	3	7.0	21	98.1

(1)　総合雑誌の論説の文長は週刊誌の記事の約2倍

上記のように総合雑誌2誌から2編を無作為に選んだのであるが，梅棹の文は Med＝14，SW＝262，大河内は文は Med＝13，SW＝237 で，わずかの差はあるが，平均すると表5のごとくで，高等学校の教科書よりも長い文構造であった。これに比べると，週刊誌の情報記事の文長はおよそ半分くらいの長さである。

そして論説には，話の文がほとんど用いられていない。で，情報記事の地の文だけの統計（表2）と比べてみても，やはり週刊誌記事のほうが短文で書かれていることがわかる。

(2)　専門雑誌の論説はさらにその2倍の長さ

専門雑誌の見本として，教師向けのＰＲ雑誌から1編の論説を選んだ調べてみた。これは，その代表という意味でなくて，比較的読みやすく書かれるはずのＰＲ誌でも，専門的な論説には，こんな長い文構造のものがあるという見本に採ったのである。

代表値24語で，短文平均12.8語，長文平均43.9語という長文で書かれている。最長の文は67語である。

(3)　週刊誌の記事は，リーダイの文より短い

一般の教養雑誌として，リーダーズ・ダイジェストは，比較的に読みやすい文で書かれている。でもその文長は，週刊誌記事よりも長い。だいたい中学上級生の教科書の程度である。

わりあいに長い週刊朝日の情報記事の文も，リーダイようは短いのである。話の文の％も多く，週刊誌記事のほうが読みやすく書かれていると言えよう。

(4)　週刊誌の小説は，総合誌の小説よりも短い

同じく小説でも，週刊誌の小説のほうが短い文で書かれており，話の文の使用率も高い。しかし前述のように，小説は，作家による個人差が大きいから，ここに調べた2編だけから推断していけないであろう。

(5)　週刊誌の小説の文長は，少年少女物語の文長と大差がない

ついでに，少年少女向週刊誌の物語文に当たってみた。すると代表値は6語で，おとなの文も子どもの文も同じであった。ただし子どもの文は長文の混入が少いので，SW＝32となり，小学2年生の教科書でも「やさしい程度である。話の文の比率も1割ほど多い。

かくておとなの週刊誌に掲載されている小説は，全体としてみると，子ども向の物語よりもすこしむずかしい文構造の程度であると言えよう。すなわち，週刊誌の小説は，おとな向きとしてはぎりぎりの線までやさしくなっているようである。

(6)　子どもマンガの文はきわめて短い

なおついでに，子どもマンガの文を調べてみた。画面の中の“吹き出し”に書きこんである文である。

これはスペースの制限もあるので，きわめて短く，代表値が3語である。1語文は全体の23％もある。長文平均は7語，最長の文は14語であった。この文長構造だと，小学1年生の教科書の「普通」の程度に当たる。文の長さの上だけからみても，マンガは，きわめて読みや

すいわけである。

全部が話の文であるはずだが，1カ所手紙の文があり，これを地の文と見たので，%は100を割っている。

5. 典型的な長さの文例

参考のために，代表値の長さの文例などを二三掲げておく。

(1) **週刊誌の情報記事**（8語文）

- 芸者の桃太郎は袖で口もとをおおい，なまめかしくからだをくねらせた。（文春）
- 豊臣工業は名古屋に本社をもつ石油コンロ，石油ストーブのメーカーである。（朝日）
- 一日に十時間の睡眠時間は，ぜひともとりたいという主義だ。（産経）
- 最後に，効果や音楽をつけ加えるダビングという仕事がある。（現代）
- ある事情があって退社し，自分で商売を始めたのである。（読売）

(2) **週刊誌の小説**

- （4語文）目を血走らせ三次は見入った。（五味）
- （5語文）翌日のひる頃，亜紀は家を出た。（井上）
- （5語文）みき子は，急いで，自分の胸にいい聞かせた。（源氏）
- （5語文）人間てやつはこうも現金なものか。（黒岩）
- （5語文）幸村は起きて，ふとんの上に坐った。（海音寺）
- （6語文）吟味の前の呼出しは朝飯前と決っている。（松本）
- （6語文）その様子を，隙見していた女がいた。（吉行）
- （6語文）襲撃されても仕方のない時期が，一応すぎた。（丹羽）
- （9語文）当人の朱実は，むろん自分のそんな点には，少しも気づいてはいまい。（北原）
- （10語文）ふいに耳もとで叔母の声がしたが，雛子は，わざと聞えぬふりをした。（山崎）

(3) **話の文**

- （3語文）たまにはゴルフもやらなくては。（井上）
- （3語文）おのれ何を致す。（五味）
- （4語文）まず第一番に祝酒が欲しいな。（松本）
- （4語文）心を静めて聞くがよい。（海音寺）
- （5語文）では，その理由をおっしゃって下さい。（源氏）
- （5語文）会社の連中が新年の挨拶に来ます。（丹羽）

(4) **長い文**

- （論説43語文）官庁勤務の非能率はすでに定評のあるところで，誰もが知っておりながら，思い切った改善措置がとり切れなかったのが実情で，官僚あがりの知事では，同類意識で，このガンを抜本的に切開できなかったのが，役人気質とは縁のない異色知事がこの低能率に喧嘩を売ったのだから，日本の官僚社会がたちまちこれに反撃に出たのも当然かも知れない。（大河内）
- （論説68語文）このようにして，読書指導によって，人間性や人間関係の理想と現実とについて正しい認識を発達させていくことは，人間性や人間関係について直接的な経験をする場合にも，基本的な認識の枠組みを提供してくれることになるから，読書指導は生活指導におけるきわめて有力な手段ではあるけれども，読書の場合には，すでに表現されているものを理解していくことによって，認識を進めていくわけであり，自分と環境の現実について直接的に新しい発見をしていくことはごくわずかだけ伴随しているものに過ぎない。
- （小説46語文）いや，それより，彼女自身ではどんな匂いだか知るわけにゆかない体息を，女が発散する時は，女の身体が動物の状態に戻って，強く発情した時だけに限っているが，ではあの時，立松洋子は，私に対してあんなに冷やかな，事もなげな素振りを見せながら，その素振りの蔭で，実はひそかに，女としての興奮を感じていたというのだろうか。（北原）

・（小説62語文）そうだす，白川村は飛弾の山の中でも特に耕地が少うて僅かな土地も分けることが出来まへんさかい，長男以外の者は婚姻も，分家も許されず，長男だけが婚姻して家長になり，あとの者は全部，家長の下に同居する男系中心の大家族制が取られてましたから，勢いこんな三階，四階建の大きな合掌造りの建て方になったわけだす，さしずめ，僕など白川村に生れたら，男系家族の犠牲になって，長男の家長は一階の奥の間に住めるけど，六男坊の僕などは，三階か四階の煤だらけの物置小屋へほうり上げられてますやろ。（山崎）

6. 要約

a．5種の週刊誌その他の文章の文長構造を調べてみた。

b．週刊誌の情報記事は，いずれもほとんど同じ文長で書かれている。だいたい小学校の4年の教科書の程度である。しかも話の文を多く用いて，劇的に表現する手法を用いている。

c．週刊誌に掲載されている小説は，一般的に言えば，情報記事よりも短い文で書かれていて，小学校3年の教科書の程度に当たるが，作家により個人差がある。中にはいちじるしく長い文ばかりで書く作家もある。話の文の使用率にも個人差が見られるが，平均すると全体の約半分は話の文である。

d．地の文と話の文とに分けると，後者のほうが約半分の長さである。教科書でも，学年が上になるにつれて，地の文は長くなるが，話の文は全学年を通じて4～5語の長さである。小説の話の文は，これに等しい。

e．総合雑誌の論説は14語文で，高等学校の教科書よりも長い。だが専門雑誌の論説には，その倍の長さのものもある。

f．週刊誌の情報記事は，よみやすい教養雑誌とされているリーダーズ・ダイジェストよりも読みやすい文構造である。

g．週刊誌の小説は，少年少女物語とほぼ同じ長さの文で書かれている。ただしおとなの小説のほうには，長い文の混入が多く，話の文の使用は少い。

h．以上により，週刊誌の文章はきわめて読みやすい文構造で，小学校の教科書の3～4年程度に当たることが知られる。ただしこれは文の長さの観点だけから見たものである。

〔参考文献〕

(1) 阪本一郎；文の長さの比重の査定法（読書科学 No. 27）昭39

(2) 阪本一郎；国語教科書の文の長さとその測定法（読書科学 No. 24）昭38

僻地児童の読書力に関する研究*

東京教育大学　中　野　善　達**
大鹿小学校　小　出　　馨

Ⅰ．問　題

地域環境の諸条件が児童の学力を大きく規定することはつとに指摘されているところである。僻地児童のそれについては北海道学芸大学の僻地教育研究所による諸報告をはじめ各地の教育研究所などの労作ががあるが，それらはいずれも僻地の実態を綿密に分析，考察を加えてはいるものの，ややもすれば環境条件を宿命的負荷としてとらえる傾きがないとはいえない。

この報告はこうした宿命観を脱却し，所与の環境条件下で学力の基礎となる「読みの力を伸ばす」ことを主題に設定し，指導を行なってきた新潟県中頸城郡妙高村大鹿小学校の教育実践における諸調査の一部である。指導の実際については部分的報告(1)があるが，いずれ稿を改めて詳報する予定である。大鹿小学校では1963年４月以来，意図的指導を行なっているが，中野は計画立案の当初からこれに参画，読書力の診断，指導効果の把捉にあたった。

読みの力の実態はともかく，指導効果の測定には多くの問題点が存する。読みの指導がたんに「読める語彙の増加」とか「読書速度が増す」といった数量的に現わしやすいものにとどまらず「自己認識と，それにもとずいて図書資料を媒体として，自己の生活を充実し，社会的に適応して人格を形成する」のを計画的に授助する教育的なアクション(4)であるとするならば，了解的，現象学的方法をもって指導効果を評価する必要があろう。本稿ではこうした認識を持ちながらも，客観的，機械的にとらえられるものに記述を限定した。また効果測定を明確にするには対象群をとるのが望ましい。しかし適切な対象群を得ることは教育的な実践研究では多くの隘路が存する。大鹿小学校でも当初は同村内の某小学校を対象群に設定しようとしたが，都合により比較がなしえなかった。そこで次善の策として等困難度の検査を実施し，全国標準の成績と比較することにした。

Ⅱ．対象と方法

対象：大鹿小学校１～６年生 124名。この学校は信越線関山駅から約４キロの地点にあり，僻地といっても冬期にのみ運行を中止するバスもある。父兄の職業の大半は農業であり，特産大鹿煙草を経済的基盤としているが経営規模は零細である。部落は密集した約200戸からなるが，最近まで血族結婚の率が著しく高かったことが指摘される。子弟に対する教育的関心は高いとはいえない。村には書店，貸本屋はないが，テレビの普及率は高く，90%を越えている。児童は温順かつ責任感が強いが，自主的・積極的な態度に欠けるようである。学校図書は1209冊を数え児童１人当りでは10.6冊になり，１人当りの数は多いが絶対数が少い。

方法：1963年４月より指導をはじめたが，５月に読書力の診断と指導計画立案のため第１回の読書力テストを実施した。　実施順に検査・調査を記す。

１）第１回読書力テスト（５月）　１～３年　基礎読書力診断テスト（第１形式）　４～６年　標準読書力診断テ

---

* A study on reading ability in a secluded primary school.

** NAKANO, Yoshitatsu (Toyyo Univ. of Education) & KOIDE, Kaoru (Ooshika primary school)

スト（第1形式），共に阪本一郎（牧書店）によるものである。

2）読書興味診断テスト（5月）　阪本一郎（牧書店）4～6年生。

3）第2回読書力テスト（9月）　第1回実施テストの第2形式を指導効果の評価と指導計画の再検討のために施行。

4）知能検査（10月）　新制田中A式。2～6年生。

5）第3回読書力テスト（1964年6月）　第1回テストと同じものを実施し，指導効果の詳細な分析と，新年度計画の検討の資にせんとした。新1年は，はじめての調査であり，新4年（前年度の3年）は標準読書力診断検査を実施した。

6）読書調査（1964年7月）　国立国語研究所による「家庭読書の調査」「読書調査（児童用）」（3）から11の調査項目を選び，字句に若干の変更を行なった多肢選択形式の質問紙である。

7）国語学力検査（1664年9月）　教研式のものを全学年に実施。

Ⅲ．結果及び考察

1．基礎読書力診断テストの平均値及び標準偏差を示したのが第1表である。下位検査の語の認知をみてみると，いずれの学年でも成績の上昇がみられる。（これは

第1表　基礎読書力診断テスト結果

学年	N	テスト	形式	語の認知 M	語の認知 SD	文の理解 M	文の理解 SD	節の理解 M	節の理解 SD	漢字の読み M	漢字の読み SD	Σ M	Σ SD	偏差値 M	偏差値 SD
新1年	20	第1回	1	11.6	8.5	10.1	6.9	8.5	6.6	0.2	0.2	30.4	19.6	40.9	6.7
1年（新2年）	10	第1回	1	6.6	5.9	5.6	5.1	5.2	5.5	0.7	1.0	18.1	15.7	36.6	5.1
		第2回	2	14.8	5.8	13.7	6.9	11.0	6.5	3.2	1.3	43.6	16.1	46.7	5.4
		第3回	1	31.6	4.8	29.5	3.8	34.0	6.6	26.5	6.7	122.1	16.7	50.5	4.7
2年（新3年）	19	第1回	1	28.0	10.3	26.3	7.9	35.2	9.4	16.8	8.4	106.7	29.1	51.3	8.7
		第2回	2	33.3	8.2	31.3	3.3	41.5	5.7	24.8	7.5	130.9	30.8	55.1	8.6
		第3回	1	42.7	6.6	38.3	6.8	50.9	7.0	41.8	12.6	173.8	27.7	51.8	7.8
3年（新4年）	14	第1回	1	37.2	7.4	29.7	10.7	45.4	9.0	27.5	9.4	139.9	40.7	46.3	8.8
		第2回	2	34.9	5.6	39.2	6.9	49.3	10.5	30.2	18.0	157.2	33.7	49.8	8.6

第2表　標準読書力診断テスト結果

学年	N	テスト	形式	速読 M	速読 SD	読解 M	読解 SD	読字 M	読字 SD	単語 M	単語 SD	Σ M	Σ SD	偏差値 M	偏差値 SD
新4年	14	第3回	1	42.7	6.6	38.3	6.8	50.9	7.0	41.8	12.6	86.6	25.6	43.1	4.5
4年（新5年）	22	第1回	1	49.6	24.4	40.8	18.8	13.8	4.2	24.5	10.3	128.7	52.1	50.4	8.8
		第2回	2	43.5	19.8	35.5	14.9	20.3	7.3	31.3	10.2	130.8	43.0	53.8	9.1
		第3回	1	66.2	22.5	56.4	19.4	22.9	7.4	39.9	11.6	185.4	55.1	50.0	8.4
5年（新6年）	26	第1回	1	53.7	23.2	44.5	23.6	18.7	8.5	34.2	24.0	151.1	65.2	46.6	9.5
		第2回	2	51.0	25.1	46.0	22.6	27.1	1.4	36.5	15.7	159.2	70.7	47.0	11.9
		第3回	1	63.9	24.6	62.2	24.1	26.8	11.3	45.7	15.7	197.3	71.6	47.0	10.7
6年	33	第1回	1	41.1	11.4	54.7	7.2	23.6	7.4	37.4	12.6	158.0	44.2	42.2	6.3
		第2回	2	50.1	29.5	50.4	18.6	32.9	11.7	38.6	13.8	162.7	89.9	45.6	8.4

全国標準と比較してという意味で，第2形式の方が全国標準は第1形式より若干低くなっている。）即ち自然の伸びよりも大きな成績の伸びがみられるのである。文の理解では3年生の上昇が著しい。標準値は第1・第2でそれぞれ36.5，36.9であるが，3年の結果は第1のそれが29.7とだいぶ低かったのに第2では39.2と標準をしのいでいる。節の理解では2年生の伸びが大きい。漢字の読みは1～3年を通じて全国標準よりも成績が低く。指導に重点を置いたが，自然の伸びを越えた上昇が殆んどみられなかった。

偏差値をみて直ちにわかることであるが，1年生の第1形式の結果は非常に低い。一般に新入児童の読み書き能力は国立国語研究所の研究(2)において代表されているように，U字型の分布をする。これは家庭あるいは保育所・幼稚園などで就学前の予備教育を受ける者はかなりの文字の読みが可能であることと，そうした教育を受けていない僻地児童とにはっきりした断層が存することを示している。大鹿小の場合，就学前の予備的準備的教育は殆んどなされていないことが，そのポアソン型（あるいはL型）の成績分布から一目瞭然となる。しかしながら，こうした遅滞が数ケ月の学校生活によって急速にとりもどされつつあることもまた，この結果が如実に示している。

2.　4～6年に施行した標準読書力診断テストの結果を第2表に示した。4～6年で特徴的なことは，速続，読字の得点がかなり低いことであって，1～3年の漢字の読みが劣ることと共に特に指導上留意すべきこととして取り上げられ努力が払われた。全体的にみれば，4年及び6年では成績が向上しているといえるが，5年生ではなんともいえない。また1～3年と同様に個人差が顕著なことも指摘しうる。

3.　総得点をとりあげ，全国標準値との比較をしてみると，とにかく学年の上るに応じて読書力が発達していることがわかる。しかしながら，その発達が一様ではなく新入学時に遅滞が大きく，1～2年の間に発達が異常なほど大きい。2～4年までは全国標準（自然の伸び）とあまり差がないが，5年項から上昇勾配がゆるやかになり，6年ではかなりの遅れが認められる。勿論これは横断的な調査であるから，個々の学年の児童の特性（知能・性格などとにらみあわせて考察しなければならないが，注目すべき現象である。新入学時の低成績については1で触れたが，5～6年で頭打ちの現象がみられることは，丁度この頃の児童の発達を促す刺激が乏しい僻地の特性によるのであろう。

4.　およそテストに於ては，その測度の妥当性と共に信頼度が重要な問題になる。ことに第1形式と第2形式が等価という前提が崩れた場合はこの実践的研究の意味のかなりの部分が稀薄になってしまう。阪本は基礎読書力テストの第1・第2形式間に0.87，標準読書力テストの第1・第2形式間では0.81という極めて高い相関を報告している。我々もこれを我々のデータをもとに算出してみた。結果は第3表ならびに第4表に示してある。第1回テスト（第1形式）と第2回テスト（第2形式）間には著しく高い相関係数（ピアソンの積率相関）がえられた。またほぼ1年の間隔をおいて同じ第1形式を用いた第1回と第3回テストの成績間も1・2年を除いては，かなりの相関が認められた。1・2年を更に細かくみると，2年生は0.921と相関が高く，1年生の相関が低いことがわかる。これは前述の如く，就学前の予備教育を受けていない僻地児童は学校教育によって急激な伸びをみせ，入学後間もない検査では将来の成績を予言しえないことを示している。このように1年を除いて，相関の高いことはテストの信頼度への間接的な傍証となりえよう。

第3表　第1回テストと第2回テストの相関

学　年	N	r
1～3年	43	.983
4～6年	81	.923

第4表　第1回テストと第3回テストの相関

学　　年	N	r
1年（新2年）・2年（新3年）	29	.201
1　年　（新2年）	(10)	.312
2　年　（新3年）	(19)	.921
3年（新4年）	14	.833
4年（新5年）・5年（新6年）	48	.676

5.　読書興味は読みの能力を規定する一つの要因としてあげられることがよくあるが，大鹿小においては読書興味診断テスト結果と読書力診断テスト結果は平行的な関係を示さなかった。第5表の如く6年生は4年生に比し読書興味は非常に高いが，読書力はそれに比してあまり高くなかった。これは読書力テストが現代の反映であるのに対し，興味テストは当該人の願望，興味の方向をさぐるといった異った次元のものをみているためであろう。しかも興味が直ちに，或いは容易に充足されうる地域と異なり，興味なり願望なりと現実とのギャップの大きい僻地ゆえにこそ，このような結果が生じたとも考えられよう。

第5表　読書興味テスト結果

学年	N	偏差値
4年	23	41.5
6年	33	53.1

第6表　知能検査結果

学　年	偏差値
2年	46.0
3年	47.3
4年	40.6
5年	42.2
6年	41.5

6.　児童の資質をみるために実施した知能検査結果を第6表に示した。従来の研究と同じく，大鹿小においても知能検査得点の低いことがあげられる。ところで知能偏差値と読書力偏差値を比較してみると興味深い事柄がわかる。即ち3年（新4年）を除いてはいずれの学年においても知能に比して読書力が高い。即ち成就値が高いのである。

ことに4年生にその差が大きく，知能偏差値平均が40.6に対し読書力偏差値は50以上を示している。また知能偏差値と読書力テスト得点との相関をみてみると，第7表のようにかなり高い相関が得られている。

第7表　知能と読書力テスト得点の相関

学　年	N	r
2・3年	33	.534
4・5年	48	.711

7.　ここで児童の読書生活をみてみたい。

第8表の上段は「ひとりで本をよむときに，こえをだしてよみますか」という質問に，①いつも　こえをだしてよむ　②こえをだすときも　だまってよむときもある　③いつもだまってよむ　④くちびるをうごかすが　こえはださない　の4つのうち，どれかを選択解答させた結果であり，6年生でもいつも黙読は8名だけで，音読・黙読の両方というのが11名で一番多い。こうした読みの習慣と，読書力テスト結果との関係をみたのが第8表の下段である。これによれば，低学年では音読する者の成績が良く，高学年は黙読する者の得点が高いことが明らかである。

第8表　音読・黙読の習慣（人数）と読書力成績（総得点平均）

	(新)1年	2年	3年	4年	5年	6年
いつも音読	8人	4人	2人	3人	0人	0人
音読・黙読の両方	7	4	11	5	14	11
いつも黙読	0	1	1	3	4	8
唇　　読	4	1	7	3	4	7
いつも音読	点 33.0	点 128.5	点 133.5	点 92.7		
音読・黙読の両方	21.0	123.3	172.2	91.6	点 175.6	点 193.1
いつも黙読		(112)	(216)	70.7	240.0	220.8
唇　　読	37.8	(102)	161.4	88.3	178.3	177.4

第9表は「あなたが本をよむ場所は　おもに　どこですか」という質問に対し，4つの選択肢のうちの一つを答えた結果であり，本を読む場所として学校の図書室が主として利用されていることが示されており，都会児童の自分の家で読むというのと対照的な結果である。

また第10表のように，自分の本のほかに　かりて本を

第9表　本を読む場所

	(新)1年	2年	3年	4年	5年	6年
学校の図書室	5人	1人	14人	9人	14人	12人
教　　室	6	0	0	1	0	0
自分の家	7	9	7	4	7	14
友人の家	0	0	0	0	1	0

第10表　本を借りて読むか

	(新)1年	2年	3年	4年	5年	6年
よく借りる	1人	0人	1人	0人	1人	3人
ときどき借りる	7	2	6	4	14	15
あまり借りない	11	8	14	10	7	7

第11表　読書の好き嫌いとその度合

	(新)1年	2年	3年	4年	年5	6年
とても好き	13人	9人	14人	1人	5人	7人
ふつう	4	0	6	11	13	17
あまり好きではない	2	1	1	2	4	2
毎日読む	6	5	2	1	2	3
ときどき読む	8	5	17	13	17	22
あまり読まない人	4	0	2	0	3	0

読むことがそう多くないのであり，第9表の結果からも学校の図書室の利用度が高いことが首肯される。

それではこれらの児童はは本をどの程度好きなのであろうか。また実際に本をどの程度読むのであろうか。それらを「あなたは本をよむことが好きなほうですか」「学校の勉強のほかに毎日なにかほかの本をよみますか」という質問に答えさせたのが第11表である。好き嫌いで特徴的なことは，1～3年生が，「とても好き」と答えているのに対し，4～6年が「ふつうである」と返答していることである。これは殊に6年の高い読書興味と比較して検討する必要がある。これら「ふつう」もしくは「あまり好きでない」と答えている者に，本を読むさいにいやなことをあげさせると，①むずかしい言葉が多く意味がわからないこと　を指摘する者が最も多く以下　②むずかしい字が多い　③読む本がない　となっており　④読んでも面白くない　とする者は極めて少ない。読み物の長さ，雑誌と単行本についての結果は第12表，13表に示した。

第12表　長い読み物の好き嫌い

	(新)1年	2年	3年	4年	5年	6年
長いものが好き	8人	7人	12人	12人	13人	15人
短いものが好き	11	3	9	9	9	12

第13表　雑誌と単行本の好き嫌い

	(新)1年	2年	3年	4年	5年	6年
雑誌が好き	9人	6人	9人	5人	16人	20人
まとまった本が好き	9	4	12	9	6	6

8.　以上，これまでの指導からは，すべての学年において自然の伸び以上の読みの力の発達がみられている。このような良好な成績は何に帰因するのであろうか。いくつかの要因が考えられるが，その1つに Testwise 所謂「テスト慣れ」があげられよう。しかしここでの成績上昇は単なるテスト慣れによる上昇以上のものであったことは結果から明らかである。従ってテスト結果からのみ云えば指導効果がみられたとして良いであろう。指導効果には教師が意識的に加えた指導の効果と，自覚されてはいないが，共通の目標を設定し，集団目標に参画していることから浸み出るものが児童に反映されるといった，いわゆるグループ・ダイナミックス的な効果もあることを看過すべきではないであろう。

おわりに

この研究は1963年4月に開始され現在，継続実施中であり，ここでは中間段階の報告をした。前述した如く，指導の内容に関しては他日報告する予定である。われわれの結果では，第1回テストと第2回テストを比較すると成績の上昇が著しかったが，第3回テストでは期待した伸びが認められなかった。尚，この研究は主題を小出が設定し，中野の参加を得てはじめられたものである。本稿は中野によっまとめられたことを付記する。

青少年保護条例による

有害指定雑誌の実態*

東京都では1964年「青少年健全育成条例」を作り，第1回の有害図書の指定を告示した。次の雑誌8種（各12月号）で，条例第8条の“いちじるしく性的感情を刺激し，またははなはだしく残虐性を助長するもの”に該当するというのである。これらは18歳未満の青少年に売ったり貸したりすることが禁止され，これに違反したものには警告が発せられる。それに従わなければ3万円の罰金が科せられることになっている。

紳士専科（辰見書房）

百万人のカメラ（新風社）

女の手帖（手帳社）

奇譚クラブ（天星社）

実話と祕録（広晴社）

裏窓（あまとりあ社）

特集夫婦生活（手帳社）

風俗奇譚（文献資料刊行会）

このことについては，すでに1963年に総理府中央青少年問題協議会で問題としてあげており，出版・販売業者は同年に「出版販売倫理綱領」を定め，また小売全連は月刊誌・週刊誌21誌を指定して送品辞退の手を打つなど，自粛の努力を払ってきたが，なおその実があがらないためについに立法処置が講じられたのである。

総理府が問題としてとりあげた当時の実態は次のようであった。

(1) 青少年の保護育成に関する道府県条例を施行しているものは現在（1963年5月）つぎの21道府県である。和歌山，香川，神奈川，北海道，福岡，大阪，長崎，山口兵庫，高知，石川，宮城，埼玉，岐阜，愛知，群馬，三重，静岡，鹿児島，新潟，茨城（制定年度順）。このうち大阪，長崎，石川を除く18道県では，有害図書の販売等を禁止する規制を有し，その違反についての罰則を定めている。

有害図書の指定は，児童福祉審議会，もしくは青少年保護育成審議会等の諮問または要請機関により，県報その他の方法で公示している。

(2) 一方，日本雑誌協会，日本書籍出版協会，出版団体連合会，日本出版取次協会では，それぞれ倫理綱領等を設けて，有害図書の出版および取次を自主規制している。

(3) 1962年5月，月刊雑誌発行の14社が，雑誌を一般大衆の健全な娯楽誌とするため，編集についての自粛方を申し合わせた。その実施された8月号以降12月号までに，有害図書の指定をした1道10県における指定延べ件数は，なお雑誌553件，週刊誌56件があった。

1963年1月号から6月号までの間には，7道県において，延べ394件を指定している。

一般に自粛の実績はあがっているとは見えない。

(4) 1962年8月から本年6月までに，有害指定を受けた雑誌はつぎの通りである。（数字は指定延べ件数）

1. 裸か美グラフ	（季節風書店）	60
2. 芸能特報	（三幸出版）	58
3. 裏窓	（久保書店）	57
4. 夫婦生活	（家庭新社）	56
5. 実話と祕録	（広晴社）	56
6. 女の百科	（新樹書房）	55
7. 100万人のよる	（季節風書店）	54
8. 実話雑誌	（三世社）	50
9. 実話情報	（三幸出版）	50
10. 読物実話	（日本文華社）	50

* Checking bad magazines by the youth protection law.

11. 風俗奇譚	（文献資料刊行会）	40
12. 別冊事件実話	（日本文芸社）	32
13. 奇譚クラブ	（天星社）	32
14. ユーモア画報	（一水社）	30
15. 画報実話雑誌	（三世社）	27
16. 男の専科	（三井出版）	23
17. 別冊実話三面記事	（日本文芸社）	22
18. 笑の泉	（一水社）	20
19. 実話事件	（三世社）	16
20. 実話の泉	（近代出版社）	14

以上のほか，別冊夫婦生活（家庭新社），現代実話(小出書房)，芸能と実話（富士書房），近代クラブ（近代出版社），100万人の女性（小出書房），捜査特報（小出書房），芸能実話（三井出版），大衆実話（日本文芸社），110番シリーズ（芸文社），現代の結婚（新風社）などがある。

このように有害指定は，特定の雑誌に集中している。Worst Ten で総指定の50%を占めている。

(5) 同じく週刊誌で有害指定を受けたものはつぎのとおりである。

1. 実話三面記事	（日本文芸社）	25
2. 週刊実話と祕録	（広晴社）	24
3. 週刊特報	（新樹書房）	20
4. 週刊事件実話	（日本文芸社）	19
5. 週刊特集実話	（日本文華社）	16
6. 週刊内外実話	（芸文社）	13

雑誌にくらべると，件数は少くなっている。

(6) 有害指定を受けた延べ件数の多い発行所はつぎのようである。

1. 季節風書店	（2誌）	114
2. 三井出版	（2誌）	108
3. 日本文芸社	（5誌）	98
4. 三世社	（3誌）	93
5. 広晴社	（1誌）	84
6. 新樹書房	（1誌）	75
7. 家庭新社	（2誌）	67
8. 日本文華社	（1誌）	66
9. 久保書店	（1誌）	57
10. 一水社	（2誌）	50
11. 文献資料刊行会	（1誌）	40
12. 天星社	（1誌）	32
13. 三井出版	（2誌）	29
14. 近代出版社	（2誌）	27
15. 小出書房	（3誌）	24
16. 芸文社	（2誌）	21
17. 富士書房	（2誌）	12

以下略する。要するに，上記約20社の雑誌・週刊誌の編集に問題があるのである。

(7) 神奈川県民生部児童課では，1963年の3月，上記のような特殊週刊誌および雑誌の販売状況を調査したものを報告している。それによると，(a) 同県では青少年保護育成条例がよく守られているので，書店・私鉄販売所などではこの種の図書を販売することを拒否しているものもあり，また店頭に置いても青少年の立ち読みを禁じているものもある。一般に売上げは少く，買うのは40歳以上の男性である。(b) 週刊誌が低俗化してきた。“土曜漫画”など好ましくないものが，子ども向きの週刊誌と並べてあったりして，子どもが手にする恐れがある。(c) 特殊雑誌がもっともよく売れるのは，特価本の段階である。古書店や夜間の露店でよい売行きを見せているが，客はやはり中年以上である。

(8) このように，出版社側の自粛も徹底せず，取次側の態度もきびしくないのが実情である。また，この種の図書も，成人層に対しては存在の意義があるという見解もあって，絶滅することは困難であるようである。そこで上記のように条例によって小売店が協力すれば，ある程度の効果があるように思われる。（阪本）

会　　報

常任理事会（1964年7月6日）

1．東販出版科学研究所の調査は，会社の都合で延期することになった。

2．本年度大会のプログラムを編成，決定した。

常任理事会（8月5日）

1．昭和39年度理事会・総会の議案を決定した。

2．会計監査を行なった。

3．予算・決算案を承認した。

理事会・総会（8月7日）

A．昭和39年度事業計画

1．第8回研究大会

8月7・8日，東京都文化会館で開催する。

2．機関誌

「読書科学」第8巻1～4号を年度内に発行する。

3．刊行物

「読書による性格形成・適書目録」上下巻を年度内に発行する。

4．共同研究

標準読み物研究特別委員会（主査阪本一郎）は引きつづき標準読み物の選定をする。

読書療法研究特別委員会を新設し，発足する。

5．委託研究

学習研究社の「学習参考書に関する研究」に協力する。なお申込があれば常任理事会で処理する。

6．役員改選

現在の全役員が再選された。

B．昭和38年度決算報告

収入	870,414円	
	前年度くりこし金	24,251
	会費	202,200
	賛助会費	540,000
	旧号売上金	42,637
	文部省買上金	50,000
	寄付	10,000
	利子	1,326
支出	827,605円	
	機関誌出版費	399,500
	第7回研究大会費	172,400
	人件費	66‘000
	本部運営費	69,600
	郵送費	78,000
	消耗・印刷費	42,105
差引残高	82,809円	

C．昭和39年度予算

収入	940,000円	
	前年度くりこし金	42,809
	会費	240,000
	賛助会費	640,000
	売上金	15,000
	寄付	1,000
	雑収入	1,191
支出	940,000円	
	機関誌出版費	600,000
	研究費・大会費	180,000
	給料	80,000
	送料	80,000
差引	0円	

第8回研究大会（8月7，8日）

会場　東京都文化会館大会議室

後援　文部省・東京都教育委員会・全国学校図書館協議会・日本図書館学会・日本読書指導研究会

第1日（午前）発表司会・まとめ　岡本奎六・深川恒喜

幼児の絵本に対する反応の研究(3)

東京田園調布小学校　岡田　明

サンテグジュペリ「星の王子さま」をどう読んだか

日本読書指導研究会　大西　貢

読書科学（Ⅶ.2）

昔話　桃太郎像の変遷と問題点

東京教育大学　滑川道夫

第1日（午後）発表司会・まとめ　花田哲幸・渡辺正亥

読書による人格形成の問題点

愛知淑徳学園　横井広保

性格問題児の読書治療に関する研究

川越市山田小学校　楮本良平

僻地校における読みの指導の実践

東京教育大学　中野善達

新潟県大鹿小学校国語研究会

児童文学における意識化と構造化の問題

横浜・山内小学校　佐藤順子

第2日（午前）発表司会・まとめ　佐藤泰正

小中高校生の読書態度　毎日新聞社　平松貞実

大学生の読書　東京教育大学　古野有隣

東京大学　本間康平

週刊誌の読者　東販出版科学研究所　河北憲夫

現代ジャーナリズムの文の長さ

東京学芸大学　阪本一郎

第2日（午後）

最近における読書科学研究の展望

(1)読書社会学について　野間教育研究所　山中輝子

(2)読書教育について　野間教育研究所　高木和子

(3)読書心理学について　野間教育研究所　阪本敬彦

シンポジウム　司会　平沢薫

文部省「道徳の指導資料」をめぐって

提案者　和光学園園長　春田正治

東京学芸大学　深川恒喜

常任理事会（9月26日）

1．読書療法研究特別委員会の主査を室伏武理事とし，さっそく発足することに決定した。

2．機関誌次号は，大会における発表原稿を編集委員会で選考して編集する。

研究談話会（9月26日）

母親に対する読書指導上の問題

学習研究社　（渡辺氏）

常任理事会（10月26日）

1．機関誌第3号は読書療法特集として，啓蒙的な記事を集録する。

2．再選された役員の諾否をとったが，全員承諾された。

庶務理事会（11月2日）

会の運営について審議した。

常任理事会（1月13日）

1．読書療法研究特別委員会は，東京付近の会員に案内したところ約30名の申込があった。第1回（11月24日）から始めて毎月第4火曜に定例会を持つこととした。

2．標準読み物研究特別委員会は，発達課題の分析作業にはいった。

3．明年度の総合研究は引きつづき「読書によるパーソナリティ形成の実証的研究」とし，研究費補助を文部省に申請する。

4．機関誌の第4号は，昭和39年の年報の形式で編集する。

日本読書学会（阪本一郎）編

読み物による性格形成

日本読書学会が科学的研究を経て，学校，家庭および治療機関におくる読書指導の新しい手引，適書が約500点，性格の指導内容から該当学年向の読み物が容易に索引でき，同時に内容の梗概と各発行元を知ることができる。

性格形成のための読み物教材が選定できる適書目録！

全2冊
上　巻（小学1年から4年まで）　¥480
下　巻（5年から中学3年まで）　¥580

阪本一郎編

標準読書力診断テスト

			用紙	手引
読書レディネス	診断テスト	（A号）	¥15	¥60
基礎読書力	診断テスト	第一形式（B号）	¥20	¥70
		第二形式（BB号）	¥20	¥70
標準読書力	診断テスト	小学校用（C号） 中学校用（D号）	標準化発行（5月中）	

阪本一郎編

教育基本語彙　¥780（3月末重版出来）

湖南千里
■学者少尉の従軍記■
阪本一郎著　¥420

文学教育はいかにあるべきか
児童文学は道徳教育の中でどのように扱われるべきか。
戦記ものブームへの考案，マンガ論など，文学教育の展望と文学教師への提言が鋭く盛られている。小・中校文学教師，児童文学研究サークルにとって必読の好著。

鳥越　信著　児童文学と文学教育　¥430
古田足日著　児童文学の思想　¥430
滑川道夫著　児童文学と読書指導　¥430
近刊　坪田譲治編　児童文学入門　（予）¥680

児童文学研究シリーズ

東京新宿揚場町　**牧書店**　振替東京 196483

Vol. 8. No. 2 January, 1965

昭和四十年一月三十一日発行（年四回発行）
昭和三十一年十二月二十七日国鉄特別扱雑誌第三三七三号

THE SCIENCE OF READING

Edited by The Japanese Society for the Science of Reading
President : Sakamoto, Ichiro
c/o The Faculty of Education, Tokyo University of Education, Japan

CONTENTS

Original Articles

Transition of the image of Momotaro in Japanese old tale.
NAMEKAWA, Michio 2

Sentence-length in modern journalism.
SAKAMOTO, Ichiro 7

A Study on reading ability in a secluded primary school.
NAKANO, Yoshitatsu
KOIDE, Kaoru 11

Materials

Checking bad magazines by the youth protection law 23

Official Notes.

第8巻 第2号
＜通巻 第28号＞
昭和40年1月30日 印刷
昭和40年1月31日 発行

定価 250円

東京都文京区大塚窪町24
東京教育大学教育学研究室内
振替東京3213番

編者 日本読書学会
代表 阪本一郎

発行者 東京都新宿区揚場町1
牧義雄

発行所 株式会社 牧書店
東京都新宿区（牛込局区内）揚場町1

IBM 6655

印刷・第一印刷株式会社